

たおき中りの上

九日朝日

夕日

永元申年

伊勢國日永村の中不道と云ふは崔合致流りは
まゐる尾州中、崔をよと居る中り、此は年、お
脚を走み、と云ふ人、おせ、毎、八億位家
死、崔と葬り、と云ふ日永村、居る所の山、山、
一日、崔を、崔の洞、出、り、お、水、入、て、
お、崔、の、ま、を、り、お、何、ら、お、ま、
中、政、交、事、こ、う、お、お、

右て尾州表畠田左通の申なり、お、
此十月朝の、

永元申八月

所、廿、
弟、
瑞、
初、
杯、
先、

方いれりて以外不物し本年は比上元節書福
而し節は遠矣念はあき今親族し為、或八困窮
且之親節言氣下一區し概流れ分し勿抱至杯
留多人親也抱至買也、節安不葉也勿論概流
後世之為はるる、若くは月さる老中ありし、わのそ
八百挿以味し上者まゝ替へて下分余は合終し其
所所人し、後之に使りし介し概下流れ
ちし色町中不概概下福知者也

申八月

ちし色町中不概概下福知者也
念了して概流れ、
所年寄、
後不

○之味は花踊出指首流々とのたを抄記筆念の葉
厚く密に中上と在り流流をん、
分取た上又色中未細取流は、
有初供也

何所流流
流流
流流
流流

と敵之味流れ、
上流の信標、
流流流、
流流流、
流流流、